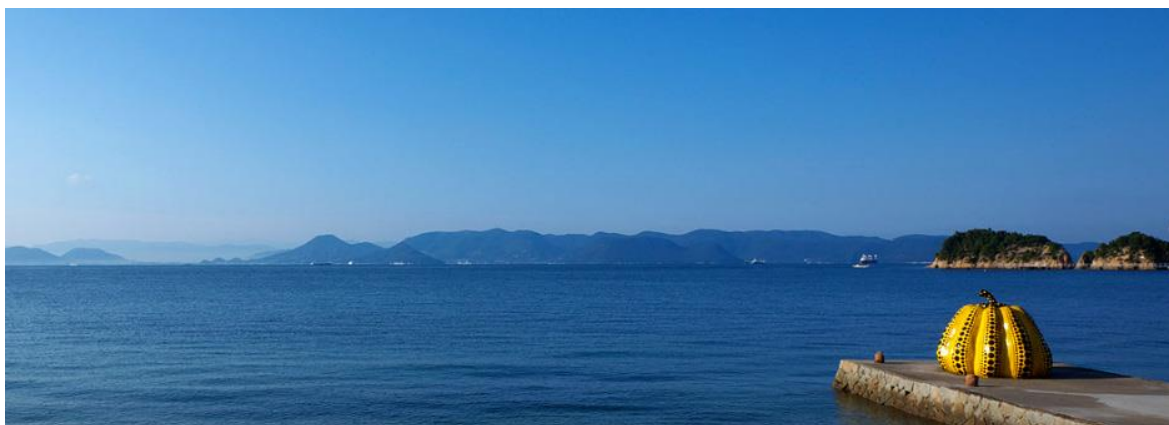


2015年6月11～13日

株式会社ベネッセホールディングス「理念価値観／リーダーシップ研修 in 直島」

////////////////////////////////////



#### ◆ 概要

本研修は、ベネッセグループ各社から推薦された管理職 14 名を対象に、ベネッセアートサイト直島で行われた 3 日間の研修である。ベネッセアートサイト直島では、アート作品、瀬戸内の自然、風景、地域の人々とのふれあいを通じて、島を訪れる人々が「ベネッセよく生きる」について考えることを目指している。本研修の目的は、ベネッセの理念を体現する直島で、改めてベネッセの理念を確認し、「予測不可能な世界においても意思決定できるリーダーに不可欠な、志・価値基準の形成」を行い、参加メンバーの成長を後押しすることである。直島の素材(アート、自然、コミュニティ)を活かした「対話」を行う、同社にとってこれまでにない「新たな一手」となる人財開発企画である。

研修初日には、同社最高顧問である福武総一郎氏による講演と車座セッションが行われた。福武氏はその中で「自分は何をするために生まれたのか」「本当の豊かさとは」「我々の企業の使命とは」と、本質的な問いに対する答えを、徹底的に考え続けてきたとお話になった。その後、初日後半と研修 2 日目を本センターの福のり子、伊達隆洋、岡崎大輔が担当。『『みる』を通したコミュニケーション』をテーマとして、イノベティブなリーダーに必要な、ダイバーシティを前提としたコミュニケーション観・スキルを磨くことを狙いとし、講義と複数のワークショップを行った。その後、直島に展示されている作品を含む計 4 作の作品鑑賞も行った。

#### ◆ 参加者の声

- \* 違う意見には違う意見になったなりの根拠がある。
- \* 一人で考えるよりも、多くの人の意見を聴く方が、視野が広がる。
- \* 人の感じ方から学びを得た。違いが自分の幅を広げる。
- \* 自分の経験や価値観をあらためて認識した。
- \* 自分の考え方の凝り固まっているところに気づいた。
- \* 同僚の価値観、意外な一面を発見した。
- \* 一人では限界がある、だからチームが必要。一人では一部分しかみえていない、だからチームが必要。本人はそれに気づかない。みえているようでみえていないものがある。
- \* 自分と違う意見を歓迎する。
- \* 知っているようで知らないものがある。それを知っていると思い込むと、そこで成長は止まる。

## ◆ 講師所感

ひとりひとり異なった意見、すなわち他者の多様な経験や価値観を受容する。すると、その違いによって自分の見方や発想が広がっていくことに気づく。さらに、他者と作品について語るプロセスを通じて、それまでは気づいていなかった、自分と他者の価値観がみえてくる。他者は自分のことをみせてくれる、自分を映す鏡であり、さらに、自分がみえていないことをみせてくれ、知らないことを知らせてくれる存在なのだ。参加者は、違いを違いで終わらせず、違いを乗り越えて対話すること、互いに互いを活かしあうダイバーシティコミュニケーションの意義と可能性を、アート作品を他者とみる経験の中から、感じ取ってくださったようだ。

作品鑑賞の後は、我々が担当したプログラム全体の振り返りセッションで、参加者それぞれが得た発見や気づきを共有した。その後、それらを各人の職場の中でどう活かすのか、ひとりひとりに職場で実践する具体的なプランを、力強く宣言していただいた。

日常に戻れば、再び猛烈なタイムプレッシャーにさらされるだろう。しかし、普段と環境を変え、ベネッセを象徴する直島で過ごした時間の中に、他者と、そして自分自身と「対話」する機会が生まれ、日常を新たな目でみるきっかけを得てくださったようだ。

研修の最後を、福は下記の言葉で締めくくった。「英語では発見を discover と言う。つまり『覆いを外す』こと。自分の目にかかった覆いを外すことは、世の中の見方、さらに自己や他者、そしてあらゆる物事との関わりを変えることにつながる。そのきっかけを与えてくれるのが、他者とアート作品。新たな目で発見したものを、いかにつなぎ、いかに新たな価値を見出すかという、創造的行為こそがイノベーションである。」研修にかかわったすべての方が「よく生きる」ために、この度の研修が何かのお役に立てたなら幸いである。



(文責 アート・コミュニケーション研究センター 講師 岡崎 大輔)